

令和元年度 学校評価シート

<学校経営方針の重点>

1 確かな学力の向上 2 心の教育の推進 3 健やかな体の育成 4 地域と共に歩む学校づくり

青梅市立吹上小学校

[資料1]後期

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策 (対応する学校経営案プロット)	評価(A,B,C,Dは%)			分析結果	改善策	学校関係者評価		学校の見解と今後の方向性																																																																																																																																																																																																																							
				平均はA=4,B=3,C=2,D=1で算出	教職員	保護者			児童	評価		コメント																																																																																																																																																																																																																						
1	学力の向上	基礎・基本を大切にし、分かる授業を実現する。	学習規律の徹底と基礎的・基本的な知識・技能の習得させるきめ細やかな指導の実施	学習規律を徹底し、落ち着いた学習環境の下で、一人一人の児童の学習意欲を高め、個に応じた指導により学力の向上を図る。	A	0.0	38.5	44.5	前期よりも教職員の評価が上がった。保護者、児童とも前期に引き続き概ね評価は高い。C・D評価が減り、B評価の割合が増えた。	B	保護者の評価が高いのは、学校公開日の児童の姿である。学校公開日は児童が緊張感をもって取り組んでいると感じる。一方で児童がC・D評価を付けているのは、学校公開日だけでなく、普段の様子から評価をしていると考えられる。学校公開日だけでなく、普段の様子を保護者が見る機会があってもよいと感じる。	引き続き、学習意欲を高めるよう個に応じた指導を行う。学校公開以外でも、希望があれば普段の授業を見に来てもらい、希望があれば普段の子供たちの様子を見てもらう。																																																																																																																																																																																																																						
				B	100.0	58.1	42.3																																																																																																																																																																																																																											
				C	0.0	2.2	9.5																																																																																																																																																																																																																											
				D	0.0	1.1	3.6																																																																																																																																																																																																																											
				平均	3.0	3.3	3.3	(設問なする)	教員も保護者もBからAへ若干数増えている。教員が1/3Cを付けていることから、改善の見込みがあると考えられる。Cを付ける理由として、全体的な底上げを感じられていないからだと考える。	B	授業改善プランが保護者の中でよく分かっていない。教員のC評価が気になるが、徐々に改善していけばよいと考える。																																																																																																																																																																																																																							
				A	4.8	44.4																																																																																																																																																																																																																												
				B	57.1	51.1																																																																																																																																																																																																																												
				C	38.1	3.9																																																																																																																																																																																																																												
				D	0.0	0.6																																																																																																																																																																																																																												
平均	2.7	3.4		家庭学習の仕方や質について折に触れて指導する。宿題だけでなく放課後の学習習慣が整うよう、発達段階を考慮して、家庭学習に取り組みよう声掛けをしていく。	B	宿題以外の内容を自主的に取り組めるとよい。小学校段階から、決められた内容だけでなく自主的な学習を促し、学習習慣を身に付けていくのが大切だと考える。																																																																																																																																																																																																																												
A	0.0	36.0	56.0																																																																																																																																																																																																																															
B	85.7	52.8	34.5																																																																																																																																																																																																																															
C	14.3	9.6	5.8																																																																																																																																																																																																																															
D	0.0	1.7	3.6																																																																																																																																																																																																																															
平均	2.9	3.2	3.4	2	思いやりの心や社会規範を身に付けた子供を育成する。	人権尊重の精神に則り人権教育の実践の充実を図るとともに、基本的な生活習慣を養い、社会規範遵守の意識を育てる。	「気持ちの良い挨拶」や「相手の思いや言葉遣い」ができるように指導するとともに、異年齢集団活動を通して、いじめゼロに向けた好ましい人間関係を育てる。	A	14.3	34.3	37.5	教員のA評価が増えた。一方で保護者はCD評価が増えた。挨拶や言葉遣いについては、学校ではできているが、外部や家庭でできていないと感じていると考えられる。	B	挨拶をすると、必ず子供たちが返してくれている。指導が行き届いていると感じる。地域にいても、挨拶をしてくれる子供がいてうれしい。いじめについて、乱暴な言葉遣いが気になることがある。高学年になると、テレビやユーチューブなどが影響していることも考えられる。指導していく必要がある。また、いじめはいじめられた側の立場を考えて指導する必要もある。生活習慣を身に付けるということについては、挨拶だけではなく、ルールやマナーについても引き続き指導を継続していくことが望まれる。	B	57.1	52.8	44.0	C	28.6	10.7	14.2	D	0.0	2.2	4.4	平均	2.5	3.2	3.1	全体的に評価が高い。児童の評価が上がっている。前期からの指導が実感されていると考えられる。	B	ルールやマナーを全校朝会や日常の学級指導などで周知する。学校全体で情報共有を積極的に行い、指導の足並みをそろえる。全教員が全児童に同じように指導できるようにする。	A	9.5	37.5	41.2	B	85.7	52.8	45.3	C	4.8	8.5	10.6	D	0.0	1.1	2.9	平均	3.0	3.3	3.2	校内研究で道徳に取り組んだことで、教員の授業改善が見られた。その結果、全体的に評価が上がってきた。また若干指導法について不安を残していることが、教員のC評価につながっていると考えられる。	A	道徳の実践力を養うためにも、教室内だけでなく、様々な環境や、校外でも道徳が身に付くように、生かせるような指導も大切と考える。	A	4.8	44.9	64.0	B	76.2	46.6	26.2	C	19.0	7.9	7.3	D	0.0	0.6	2.5	平均	2.9	3.4	3.5	3	健やかな体の育成	自ら運動に親しむ態度を養い、望ましい食習慣など心身共に健康的な体を育てる。	集団行動やマラソン・縄跳びなどの運動に粘り強く取り組み、決まりのある行動や基礎体力を身に付け、健康でじょうぶな体作りに取り組む力を育てる。	A	4.8	41.6	61.5	1学期に行進練習・ラジオ体操をすることにより、体力や健康の意識を高めるだけでなく、集団行動や規律面でも意識させることができていると考える。体育集会ではICTを活用し、ポイントをわかりやすく伝えることで正しい身体の使い方を指導し、身体づくりに取り組む力を育てる。	A	なわとび週間やマラソン週間があるので、子供の健康、体力づくりの指導をお願いします。運動会では、どの学年も頑張っている姿がすばらしかった。	B	66.7	52.2	25.8	C	28.6	5.6	8.4	D	0.0	0.6	4.4	平均	2.8	3.3	3.4	教員はおおむね評価が高い。保護者のCD評価は給食指導についての意見があると思われる。	B	引き続き色々な教科領域と関連付けて、食育の指導に取り組む。給食の時間などに食への関心が高まる働きかけをしていく。給食についての共通理解を図る。	A	4.8	39.7		B	95.2	55.3		C	0.0	4.5		D	0.0	0.6		平均	3.0	3.3		4	特別支援教育の充実	特別支援教育に関する研修会を通して、特別支援教育について共通理解を図り、組織的に取り組んでいく。	あおぞら学級と通常学級の児童間・教師間の交流や連携、ひまわり教室との連携を図り、障害に関する理解を深め、偏見や差別のない人間関係を育てる。	A	4.8	40.2	60.4	2学期は大きな行事もあり、授業の中で交流の場面が増えた。そのため、子供たちの様子が伝わり、教職員のA評価、B評価のポイントがあがったと考えられる。	A	先生方が連携して対処してくれていると感じる。子供たちも先生方を信頼して通っている。行事だけでなく普段の学習でも普通級との交流があつてよい。とても大切なことなので継続してほしい。	B	76.2	46.9	32.6	C	19.0	8.9	5.5	D	0.0	1.1	1.5	平均	2.9	3.2	3.5	児童理解協議会や特別支援教育理解研修等を通じて共通理解が図れたことで、教職員のA評価、B評価が上がったと考えられる。	A	あおぞら学級については、2年目なので、徐々に理解が広がればよいと思う。個に応じた指導や臨機応変に対応して児童と向き合っていく。先生方の負担も大きいので、心配している。先生方へのケアも必要と考える。	A	33.3	36.9		B	57.1	47.5		C	9.5	11.7		D	0.0	1.1		平均	3.2	3.1		5	地域と共に歩む学校づくり	課題を共有し、地域の人材や資源を活用した教育活動を展開する。	学校行事・学校公開・学校便り・ホームページ等で学校の情報や教育活動の様子を発信し、開かれた学校づくりに努めている。	A	23.8	40.8		教員、保護者ともにAB評価は前期と大きく変わらず、おおむね良いと思われる。ホームページの更新回数を増やしたが、そのことが保護者に伝わっていない可能性がある。	A	ホームページを更新した旨を周知する必要あるのではと考える。他校では紙ベースのお便りをホームページのみに載せている例もあるようだ。	B	66.7	52.0		C	9.5	6.7		D	0.0	0.0		平均	3.1	3.3		保護者には引き続き概ね高い評価をいただいた。外部人材を取り入れた側面が多かったため教員側評価も上がったと考えられる。	A	保護者のボランティアは、今後とも学年を超えての活用を図っていく。地域や外部の人材の活用については、さらに進められるように人材の整理を進め、必要な時に来ていただけるようにする。	A	0.0	46.9		B	66.7	46.4		C	33.3	5.0		D	0.0	0.0		平均	2.7	3.4	
2	思いやりの心や社会規範を身に付けた子供を育成する。	人権尊重の精神に則り人権教育の実践の充実を図るとともに、基本的な生活習慣を養い、社会規範遵守の意識を育てる。	「気持ちの良い挨拶」や「相手の思いや言葉遣い」ができるように指導するとともに、異年齢集団活動を通して、いじめゼロに向けた好ましい人間関係を育てる。				A	14.3	34.3	37.5	教員のA評価が増えた。一方で保護者はCD評価が増えた。挨拶や言葉遣いについては、学校ではできているが、外部や家庭でできていないと感じていると考えられる。				B	挨拶をすると、必ず子供たちが返してくれている。指導が行き届いていると感じる。地域にいても、挨拶をしてくれる子供がいてうれしい。いじめについて、乱暴な言葉遣いが気になることがある。高学年になると、テレビやユーチューブなどが影響していることも考えられる。指導していく必要がある。また、いじめはいじめられた側の立場を考えて指導する必要もある。生活習慣を身に付けるということについては、挨拶だけではなく、ルールやマナーについても引き続き指導を継続していくことが望まれる。																																																																																																																																																																																																																		
			B				57.1	52.8	44.0																																																																																																																																																																																																																									
			C				28.6	10.7	14.2																																																																																																																																																																																																																									
			D				0.0	2.2	4.4																																																																																																																																																																																																																									
			平均				2.5	3.2	3.1	全体的に評価が高い。児童の評価が上がっている。前期からの指導が実感されていると考えられる。	B	ルールやマナーを全校朝会や日常の学級指導などで周知する。学校全体で情報共有を積極的に行い、指導の足並みをそろえる。全教員が全児童に同じように指導できるようにする。																																																																																																																																																																																																																						
			A				9.5	37.5	41.2																																																																																																																																																																																																																									
			B				85.7	52.8	45.3																																																																																																																																																																																																																									
			C				4.8	8.5	10.6																																																																																																																																																																																																																									
			D	0.0	1.1	2.9																																																																																																																																																																																																																												
平均	3.0	3.3	3.2	校内研究で道徳に取り組んだことで、教員の授業改善が見られた。その結果、全体的に評価が上がってきた。また若干指導法について不安を残していることが、教員のC評価につながっていると考えられる。	A	道徳の実践力を養うためにも、教室内だけでなく、様々な環境や、校外でも道徳が身に付くように、生かせるような指導も大切と考える。																																																																																																																																																																																																																												
A	4.8	44.9	64.0																																																																																																																																																																																																																															
B	76.2	46.6	26.2																																																																																																																																																																																																																															
C	19.0	7.9	7.3																																																																																																																																																																																																																															
D	0.0	0.6	2.5																																																																																																																																																																																																																															
平均	2.9	3.4	3.5	3	健やかな体の育成	自ら運動に親しむ態度を養い、望ましい食習慣など心身共に健康的な体を育てる。	集団行動やマラソン・縄跳びなどの運動に粘り強く取り組み、決まりのある行動や基礎体力を身に付け、健康でじょうぶな体作りに取り組む力を育てる。	A	4.8	41.6	61.5	1学期に行進練習・ラジオ体操をすることにより、体力や健康の意識を高めるだけでなく、集団行動や規律面でも意識させることができていると考える。体育集会ではICTを活用し、ポイントをわかりやすく伝えることで正しい身体の使い方を指導し、身体づくりに取り組む力を育てる。	A	なわとび週間やマラソン週間があるので、子供の健康、体力づくりの指導をお願いします。運動会では、どの学年も頑張っている姿がすばらしかった。	B	66.7	52.2	25.8	C	28.6	5.6	8.4	D	0.0	0.6	4.4	平均	2.8	3.3	3.4	教員はおおむね評価が高い。保護者のCD評価は給食指導についての意見があると思われる。	B	引き続き色々な教科領域と関連付けて、食育の指導に取り組む。給食の時間などに食への関心が高まる働きかけをしていく。給食についての共通理解を図る。	A	4.8	39.7		B	95.2	55.3		C	0.0	4.5		D	0.0	0.6		平均	3.0	3.3		4	特別支援教育の充実	特別支援教育に関する研修会を通して、特別支援教育について共通理解を図り、組織的に取り組んでいく。	あおぞら学級と通常学級の児童間・教師間の交流や連携、ひまわり教室との連携を図り、障害に関する理解を深め、偏見や差別のない人間関係を育てる。	A	4.8	40.2	60.4	2学期は大きな行事もあり、授業の中で交流の場面が増えた。そのため、子供たちの様子が伝わり、教職員のA評価、B評価のポイントがあがったと考えられる。	A	先生方が連携して対処してくれていると感じる。子供たちも先生方を信頼して通っている。行事だけでなく普段の学習でも普通級との交流があつてよい。とても大切なことなので継続してほしい。	B	76.2	46.9	32.6	C	19.0	8.9	5.5	D	0.0	1.1	1.5	平均	2.9	3.2	3.5	児童理解協議会や特別支援教育理解研修等を通じて共通理解が図れたことで、教職員のA評価、B評価が上がったと考えられる。	A	あおぞら学級については、2年目なので、徐々に理解が広がればよいと思う。個に応じた指導や臨機応変に対応して児童と向き合っていく。先生方の負担も大きいので、心配している。先生方へのケアも必要と考える。	A	33.3	36.9		B	57.1	47.5		C	9.5	11.7		D	0.0	1.1		平均	3.2	3.1		5	地域と共に歩む学校づくり	課題を共有し、地域の人材や資源を活用した教育活動を展開する。	学校行事・学校公開・学校便り・ホームページ等で学校の情報や教育活動の様子を発信し、開かれた学校づくりに努めている。	A	23.8	40.8		教員、保護者ともにAB評価は前期と大きく変わらず、おおむね良いと思われる。ホームページの更新回数を増やしたが、そのことが保護者に伝わっていない可能性がある。	A	ホームページを更新した旨を周知する必要あるのではと考える。他校では紙ベースのお便りをホームページのみに載せている例もあるようだ。	B	66.7	52.0		C	9.5	6.7		D	0.0	0.0		平均	3.1	3.3		保護者には引き続き概ね高い評価をいただいた。外部人材を取り入れた側面が多かったため教員側評価も上がったと考えられる。	A	保護者のボランティアは、今後とも学年を超えての活用を図っていく。地域や外部の人材の活用については、さらに進められるように人材の整理を進め、必要な時に来ていただけるようにする。	A	0.0	46.9		B	66.7	46.4		C	33.3	5.0		D	0.0	0.0		平均	2.7	3.4																																																																										
3	健やかな体の育成	自ら運動に親しむ態度を養い、望ましい食習慣など心身共に健康的な体を育てる。	集団行動やマラソン・縄跳びなどの運動に粘り強く取り組み、決まりのある行動や基礎体力を身に付け、健康でじょうぶな体作りに取り組む力を育てる。				A	4.8	41.6	61.5	1学期に行進練習・ラジオ体操をすることにより、体力や健康の意識を高めるだけでなく、集団行動や規律面でも意識させることができていると考える。体育集会ではICTを活用し、ポイントをわかりやすく伝えることで正しい身体の使い方を指導し、身体づくりに取り組む力を育てる。				A	なわとび週間やマラソン週間があるので、子供の健康、体力づくりの指導をお願いします。運動会では、どの学年も頑張っている姿がすばらしかった。																																																																																																																																																																																																																		
			B				66.7	52.2	25.8																																																																																																																																																																																																																									
			C				28.6	5.6	8.4																																																																																																																																																																																																																									
			D				0.0	0.6	4.4																																																																																																																																																																																																																									
			平均				2.8	3.3	3.4	教員はおおむね評価が高い。保護者のCD評価は給食指導についての意見があると思われる。	B	引き続き色々な教科領域と関連付けて、食育の指導に取り組む。給食の時間などに食への関心が高まる働きかけをしていく。給食についての共通理解を図る。																																																																																																																																																																																																																						
			A				4.8	39.7																																																																																																																																																																																																																										
			B				95.2	55.3																																																																																																																																																																																																																										
			C				0.0	4.5																																																																																																																																																																																																																										
			D	0.0	0.6																																																																																																																																																																																																																													
平均	3.0	3.3		4	特別支援教育の充実	特別支援教育に関する研修会を通して、特別支援教育について共通理解を図り、組織的に取り組んでいく。	あおぞら学級と通常学級の児童間・教師間の交流や連携、ひまわり教室との連携を図り、障害に関する理解を深め、偏見や差別のない人間関係を育てる。	A	4.8	40.2	60.4	2学期は大きな行事もあり、授業の中で交流の場面が増えた。そのため、子供たちの様子が伝わり、教職員のA評価、B評価のポイントがあがったと考えられる。	A	先生方が連携して対処してくれていると感じる。子供たちも先生方を信頼して通っている。行事だけでなく普段の学習でも普通級との交流があつてよい。とても大切なことなので継続してほしい。	B	76.2	46.9	32.6	C	19.0	8.9	5.5	D	0.0	1.1	1.5	平均	2.9	3.2	3.5	児童理解協議会や特別支援教育理解研修等を通じて共通理解が図れたことで、教職員のA評価、B評価が上がったと考えられる。	A	あおぞら学級については、2年目なので、徐々に理解が広がればよいと思う。個に応じた指導や臨機応変に対応して児童と向き合っていく。先生方の負担も大きいので、心配している。先生方へのケアも必要と考える。	A	33.3	36.9		B	57.1	47.5		C	9.5	11.7		D	0.0	1.1		平均	3.2	3.1		5	地域と共に歩む学校づくり	課題を共有し、地域の人材や資源を活用した教育活動を展開する。	学校行事・学校公開・学校便り・ホームページ等で学校の情報や教育活動の様子を発信し、開かれた学校づくりに努めている。	A	23.8	40.8		教員、保護者ともにAB評価は前期と大きく変わらず、おおむね良いと思われる。ホームページの更新回数を増やしたが、そのことが保護者に伝わっていない可能性がある。	A	ホームページを更新した旨を周知する必要あるのではと考える。他校では紙ベースのお便りをホームページのみに載せている例もあるようだ。	B	66.7	52.0		C	9.5	6.7		D	0.0	0.0		平均	3.1	3.3		保護者には引き続き概ね高い評価をいただいた。外部人材を取り入れた側面が多かったため教員側評価も上がったと考えられる。	A	保護者のボランティアは、今後とも学年を超えての活用を図っていく。地域や外部の人材の活用については、さらに進められるように人材の整理を進め、必要な時に来ていただけるようにする。	A	0.0	46.9		B	66.7	46.4		C	33.3	5.0		D	0.0	0.0		平均	2.7	3.4																																																																																																																												
4	特別支援教育の充実	特別支援教育に関する研修会を通して、特別支援教育について共通理解を図り、組織的に取り組んでいく。	あおぞら学級と通常学級の児童間・教師間の交流や連携、ひまわり教室との連携を図り、障害に関する理解を深め、偏見や差別のない人間関係を育てる。				A	4.8	40.2	60.4	2学期は大きな行事もあり、授業の中で交流の場面が増えた。そのため、子供たちの様子が伝わり、教職員のA評価、B評価のポイントがあがったと考えられる。				A	先生方が連携して対処してくれていると感じる。子供たちも先生方を信頼して通っている。行事だけでなく普段の学習でも普通級との交流があつてよい。とても大切なことなので継続してほしい。																																																																																																																																																																																																																		
			B				76.2	46.9	32.6																																																																																																																																																																																																																									
			C				19.0	8.9	5.5																																																																																																																																																																																																																									
			D				0.0	1.1	1.5																																																																																																																																																																																																																									
			平均				2.9	3.2	3.5	児童理解協議会や特別支援教育理解研修等を通じて共通理解が図れたことで、教職員のA評価、B評価が上がったと考えられる。	A	あおぞら学級については、2年目なので、徐々に理解が広がればよいと思う。個に応じた指導や臨機応変に対応して児童と向き合っていく。先生方の負担も大きいので、心配している。先生方へのケアも必要と考える。																																																																																																																																																																																																																						
			A				33.3	36.9																																																																																																																																																																																																																										
			B				57.1	47.5																																																																																																																																																																																																																										
			C				9.5	11.7																																																																																																																																																																																																																										
			D	0.0	1.1																																																																																																																																																																																																																													
平均	3.2	3.1		5	地域と共に歩む学校づくり	課題を共有し、地域の人材や資源を活用した教育活動を展開する。	学校行事・学校公開・学校便り・ホームページ等で学校の情報や教育活動の様子を発信し、開かれた学校づくりに努めている。	A	23.8	40.8		教員、保護者ともにAB評価は前期と大きく変わらず、おおむね良いと思われる。ホームページの更新回数を増やしたが、そのことが保護者に伝わっていない可能性がある。	A	ホームページを更新した旨を周知する必要あるのではと考える。他校では紙ベースのお便りをホームページのみに載せている例もあるようだ。	B	66.7	52.0		C	9.5	6.7		D	0.0	0.0		平均	3.1	3.3		保護者には引き続き概ね高い評価をいただいた。外部人材を取り入れた側面が多かったため教員側評価も上がったと考えられる。	A	保護者のボランティアは、今後とも学年を超えての活用を図っていく。地域や外部の人材の活用については、さらに進められるように人材の整理を進め、必要な時に来ていただけるようにする。	A	0.0	46.9		B	66.7	46.4		C	33.3	5.0		D	0.0	0.0		平均	2.7	3.4																																																																																																																																																																														
5	地域と共に歩む学校づくり	課題を共有し、地域の人材や資源を活用した教育活動を展開する。	学校行事・学校公開・学校便り・ホームページ等で学校の情報や教育活動の様子を発信し、開かれた学校づくりに努めている。				A	23.8	40.8		教員、保護者ともにAB評価は前期と大きく変わらず、おおむね良いと思われる。ホームページの更新回数を増やしたが、そのことが保護者に伝わっていない可能性がある。				A	ホームページを更新した旨を周知する必要あるのではと考える。他校では紙ベースのお便りをホームページのみに載せている例もあるようだ。																																																																																																																																																																																																																		
			B				66.7	52.0																																																																																																																																																																																																																										
			C				9.5	6.7																																																																																																																																																																																																																										
			D				0.0	0.0																																																																																																																																																																																																																										
			平均				3.1	3.3		保護者には引き続き概ね高い評価をいただいた。外部人材を取り入れた側面が多かったため教員側評価も上がったと考えられる。	A	保護者のボランティアは、今後とも学年を超えての活用を図っていく。地域や外部の人材の活用については、さらに進められるように人材の整理を進め、必要な時に来ていただけるようにする。																																																																																																																																																																																																																						
			A				0.0	46.9																																																																																																																																																																																																																										
			B				66.7	46.4																																																																																																																																																																																																																										
			C				33.3	5.0																																																																																																																																																																																																																										
			D	0.0	0.0																																																																																																																																																																																																																													
平均	2.7	3.4																																																																																																																																																																																																																																